

Baselines - パブリケーションの 複数エディションの管理

Tridion® Docs の Baselines 機能でコンテンツバリエーションを 長期間にわたって管理

今日のグローバル企業は、専門性が高く何種類もバージョンのある情報を長期間にわたって管理する必要に迫られています。従業員、パートナー、顧客に情報を十分に提供するための土台となるのは、信頼性の高い情報です。

しかし、テクニカルドキュメント、ポリシー、手続き、ガイドライン、その他のビジネスクリティカルなコンテンツのように専門性の高い情報は管理が難しい面があります。特に、企業が扱っている対象が、技術革新サイクルの短い製品、多数の製品バリエーション、地域/期間限定の規制、多言語コンテンツ、各種の出力形式やパブリケーションである場合には、その傾向が強くなります。

一般にこのような煩雑さがあると、管理の行き届かないドキュメントが大量に出回り、どのコンテンツが最新で、どの作業が進行中で、どれが古くなったものなのか、ほとんど見分けが付きません。

Tridion Docs と Baselines のメリット

正確な情報を掲載した AI 対応コンテンツをタイムリーに発行するというニーズを満たす Tridion Docs のコンテンツ管理では、旧式のドキュメント中心アプローチを廃し、コンテンツのコンポーネント化を採用しています。

Baselines と呼ばれる独自機能により、ドキュメントを構成するコンテンツコンポーネントを厳格に管理できます。コンテンツの長期管理が可能で、各言語に対応した複数の並行バージョンを同時に維持・更新できる柔軟性も備えています。

次のような課題も、Tridion Docs と Baselines で解決できます。
Baselines で可能なこと：



バージョンを厳密に管理する

特定のパブリケーションがどのコンテンツ項目で構成されているのかがBaselinesによって定義されます。コンテンツ項目がバージョン管理されるため、パブリケーションの各コンテンツの正確なバージョンも定義されます。その結果、パブリケーション全体のバージョンをきめ細かく厳格に管理できます。



複数のパブリケーションで作業する

Baselines を使用すると、現行のドキュメントを維持しながら、新版のパブリケーションを作成したり、他の市場や顧客層向けのパブリケーションを並行して扱ったりすることもできます。



古いコンテンツを遡る

過去のパブリケーションを遡り、どのバージョンのコンテンツ項目が使用されたのかを確認できます。

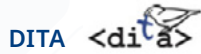


一貫性のある動的な出力を生成する

Baselines はパブリケーション間で共有できるため、同じコンテンツ項目セットを使用しつつ、別の条件やプロパティを適用して異なる出力を動的に生成することも可能です。

中核となるコンセプト

Tridion Docs の Baselines の仕組みを理解できるように、まず中核となるコンセプトについて説明します。



Tridion Docs では、DITA (Darwin Information Typing Architecture) と呼ばれる XML 規格を使用してコンテンツを保存します。この規格は**トピック**と**マップ**という概念に基づいています。

トピックとマップ

トピックはコンテンツそのものに相当します。

マップは目次のようなもので、コンテンツの階層構造の何番目にトピックを配置してドキュメントを構成するのかを定義したものです。コンテンツ自体は、コピーされず、常に参照されます。

トピックはテキストベースですが、ドキュメント内では**画像**を使用し、それを参照することもできます。

ライブラリトピックは、何度も再利用される可能性のある一連の情報（免責事項など）を一元管理したものです。

変数と条件

コンテンツを動的に取得する手段として、トピックに**変数**を挿入できます。変数は出力プロセスの段階で実際の内容に置き換えられます。これにより、情報全体にわたって特定のキーワード（製品名、CEO の氏名など）をすばやく変更できます。

条件を使用すると、出力を動的に変更でき、発行時に特定の内容を除外することが可能になります。たとえば、製品 A と製品 B のトピックが説明文の 1 行以外はまったく同じ場合、その説明文に条件を付け、製品 A と製品 B のドキュメントのどちらを出力するのかに応じて説明文の表示／非表示を切り替えられます。

パブリケーション

パブリケーションとは、リポジトリからコンテンツオブジェクト一式（特定バージョンのトピック、画像、マップ）を取り出し、具体的なドキュメントプロジェクトとしてまとめたものです。正しいバージョンのコンテンツ項目を参照するために、Baseline が使用されます。また、パブリケーションには、適用する条件と変数や、配信する際の出力形式も定義できます。

Baselines の説明

下の図に示すようにパブリケーションを作成するとします。このパブリケーションは、4つのトピック、いくつかの画像、いくつかのライブラリトピックで構成されています。マップは、コンテンツのすべての構成要素を参照しています。

このようなパブリケーションを作成し、その情報を発行すると、成果物の第1版が作成されます。

紫色の線は、第1版を構成するすべての要素を規定する Baseline を表しています。

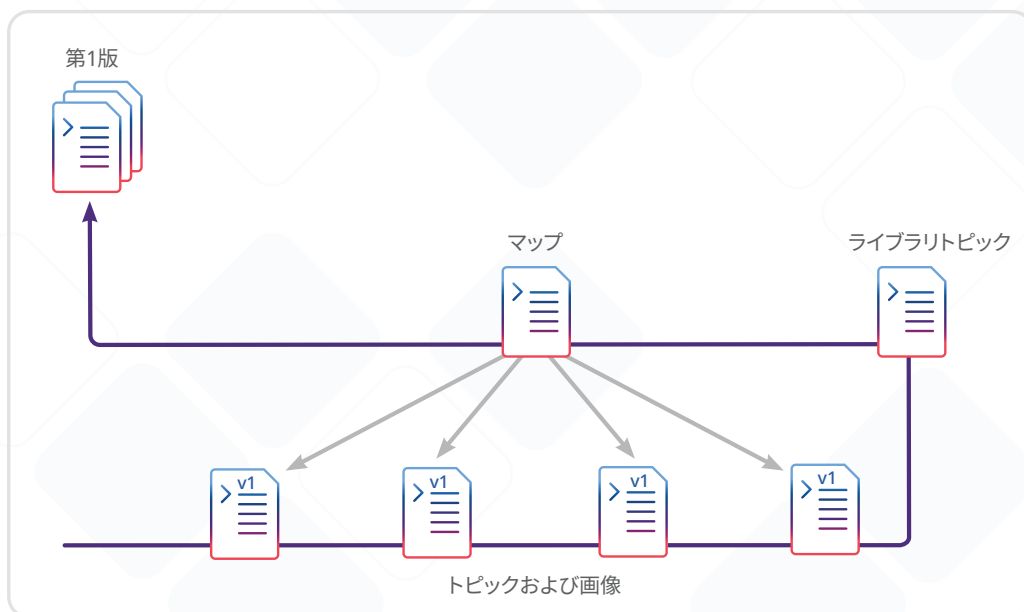


図 1：第1版の情報を発行

第1版を作成しながら、同時並行で第2版を作成する場合があります。たとえば、以下のようなケースです。

- **細かいルールと規制**：今年の版と翌年の更新版を同時進行で作成する必要があるケース
- **製品ドキュメント**：ある市場では旧バージョンのコンポーネントを搭載した製品をリリースし、別の市場では新バージョンのコンポーネントを搭載した製品をリリースするケース

この様子を下の図にまとめました。

赤色の線は第2版を構成するすべての要素を規定する Baseline を表し、**紫色の線**は第1版のものを表しています。

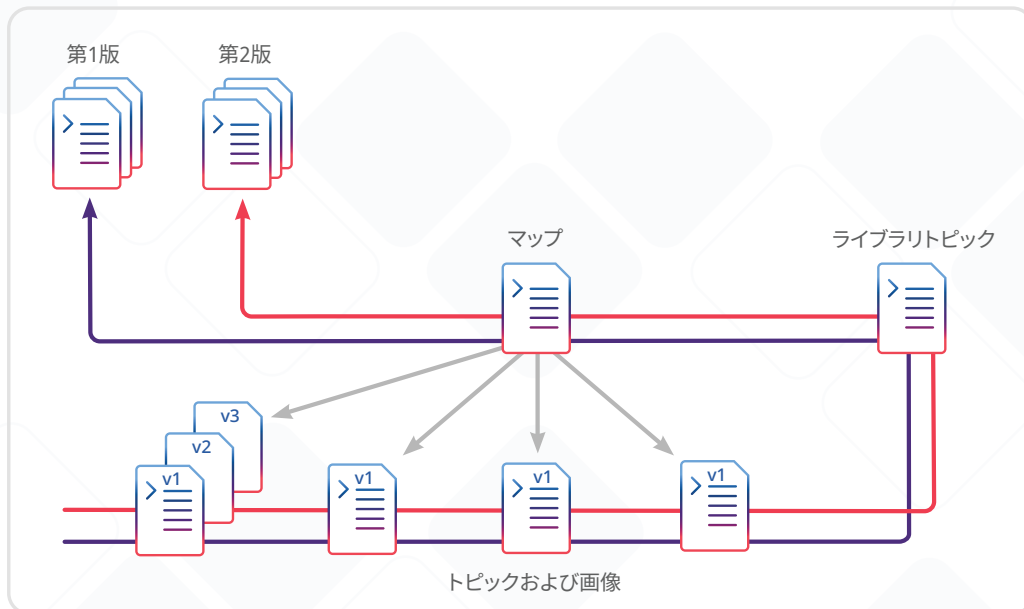


図 2：新旧それぞれのバージョンのトピックを組み合わせで同時並行で第2版の情報を発行

もっと複雑なシナリオも管理できます。下の図は第3版を作成した例です。第3版は、既存トピックの新しいバージョン、まったく新しいトピックと画像、新しいライブラリトピック、新しいマップを参照しています。ここでも、使用されている要素を新しい Baseline で追跡しています。

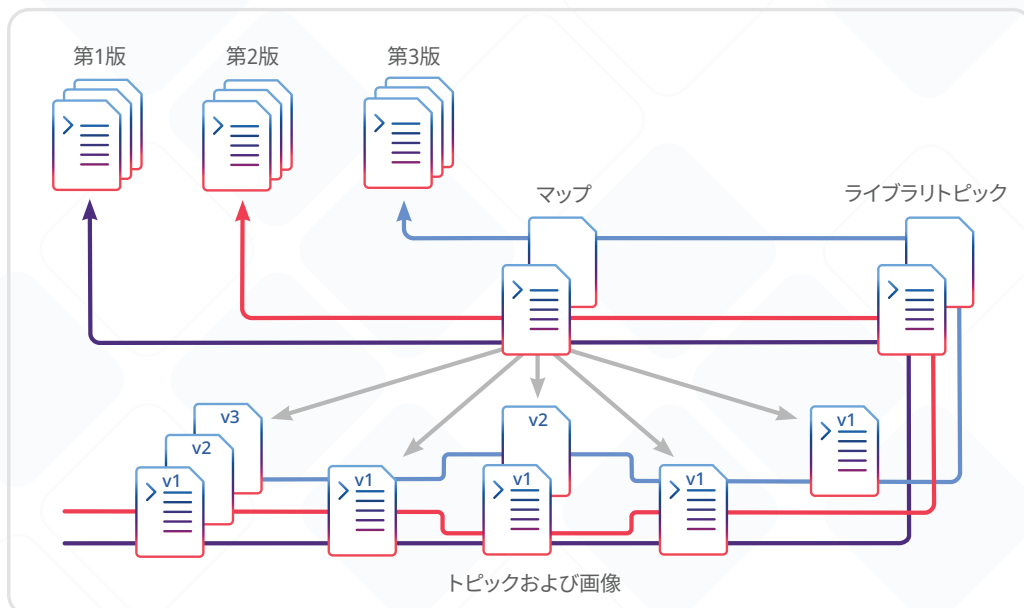


図 3：第3版の情報を発行

どのタイミングでも、古いエディションを新しいエディションとして取得、変更、再発行できます。これは、Baselines が存在し続ける限り、エディションがどのように構築され、何で構成されているかを判定できるからです。

Baselines にはこのような特徴があるため、ドキュメントの複数バージョンを長期間にわたって並行管理できます。また、新しいバージョンを作成しても、既存のドキュメントは有効性を失わず、継続して取り扱うことができます。

これは、ある時点のスナップショットを単に取得するだけだったり、従来のバージョン管理と分岐メカニズムをベースとしたりしている他の多くのアプローチとは根本的に異なります。

今後の展望

従業員、パートナー、顧客に十分な情報が行き渡るようにするには、情報の質と一貫性が非常に重要になります。急速な技術革新、アジャイルな働き方、常に変化する市場動向を背景に、情報の更新間隔は短くなる一方です。加えて法的な締め付けも次第に厳しくなっており、対応を誤れば甚大な結果に結びつく危険性があります。融通の利かないドキュメント中心アプローチから脱却し、コンテンツのコンポーネント化に移行する必要性が、かつてないほど高まっています。

このような課題に直面しているなら、Baselines 機能を備えた Tridion Docs をぜひご活用ください。

詳しくは以下をご覧ください

rws.com/jp/tridion-docs

RWS について

RWS Holdings plc は、テクノロジーを駆使した言語サービス、コンテンツサービス、知的財産サービスを提供する、唯一無二のリーディングプロバイダです。当社はコンテンツの変革と多言語データ分析を通じて、AI を活用したテクノロジーと人間の専門知識を組み合わせ、お客様がどこでも、あらゆる言語で理解されるようにすることでビジネスの成長をサポートします。

当社が目指しているのは、グローバル理解の実現です。文化の理解、企業の理解、技術の理解を組み合わせることにより、当社のサービスとテクノロジーが、顧客の獲得と維持、魅力的なユーザー体験の提供、コンプライアンスの維持、データやコンテンツにおける実用的なインサイトの獲得など、お客様をさまざまな面でサポートします。

過去 20 年間にわたり、当社は独自の AI ソリューションを進化させるとともに、お客様による多言語 AI アプリケーションの探求、構築、使用を支援してきました。また、45 件以上の AI 関連特許と 100 件以上の査読論文を保有し、お客様の AI 導入をサポートしてきた経験と専門知識があります。

世界のトップブランド 100 社の 80% 以上、フォーチュン誌の「最も賞賛される企業」20 社の 4 分の 3 以上、さらに大手製薬会社、投資銀行、法律事務所、特許事務所のほぼすべてが当社を利用しています。クライアントベースは、ヨーロッパ、アジア太平洋、アフリカ、北南米に広がっています。5 つの大陸に展開した 65 を超えるグローバル拠点から、自動車、化学、金融、法律、医療、製薬、テクノロジー、電気通信の各分野のお客様にサービスを提供しています。

1958 年に設立された RWS は、英国に本社を置き、AIM、ロンドン証券取引所規制市場に上場されています (RWS.L)。

詳細については、www.rws.com/jp をご覧ください。

© 2024 All rights reserved. ここに記載されている情報は、RWS Group* の機密情報および専有情報とみなされます。* RWS Group とは、RWS Holdings plc およびその関連会社および子会社の代表を意味します。